

初春のお慶びを申し上げます



相馬村農業協同組合
代表理事組合長
大場 勉

新年、明けましておめでとうございます。

組合員及び地域住民の皆様ともに輝かしい新年を迎えたことに謹んでご祝詞を申し上げます。

日頃より農協の各事業におきましては、格別なるご理解とご協力を頂き、厚くお礼申し上げます。

さて、昨年を振り返ってみますと国内経済は緩やかな回復基調を維持したものの、トランプ関税（米国の高関税政策）の影響で輸出や設備投資に下押し圧力がかかり、景気の先行きに不確実性が残る一年となりました。物価が高騰を続ける中、新たに誕生した高市新政策は51年続いたガソリン暫定税率の廃止や、電気・ガス料金の支援など、次々に対策を打ち出しており、今後の動向に期待したいところです。

農協・農業を取りまく情勢については、兼ねてからの労働力不足

に加え、農地継承が思うようにすまず、粗放園や耕作放棄地が目立つようになりました。行政や関係機関と協力しながら、労働力不足対策と並行して取り組んでまいります。

当JAの主力作物であるりんごにつきましては、大雪の影響による雪害から始まり、夏場の干ばつにより小玉傾向となつたことに加え、カ梅ムシ被害による良品率の低下が散見されました。また、山の実の凶作等により、鳥獣被害も大発生しました。幸いにも当管内では人的被害が無かつたものの、鳥害やクマによる食害や枝折れの被害が多発しました。さらには9月の2週にわたる強風落下により、入庫数量は505,475箱（前年対比82%）と平成3年の台風被害以来の減収の年となりました。組合員の皆様方には衷心よりお見舞い申し上げます。稲作につきまし

ては初期成育が思うように進まず、その後気温が高めに推移しましたが夜温が高く平年より少ない茎数となり、自主流通米5,184俵（前年比90%）全量一等米となりました。

令和7年産販売につきましては、産地市場で早生種が高値で推移しましたことから、売価高となり、荷動きが鈍い状態でのスタートとなりました。そのため、中生種への品種間移行が後半へずれ込み、特に黄色品種については厳しい販売となりました。一方、輸出については、「きょう」「トキ」のビターピットが大量発生し、後続する「ぐんま名月」の販売へも影響し、不調な販売となりました。主力である「サンふじ」につきましては、長野県産が高値でスタートしたことから、競合果実のみかん・柿・苺が売り場の中心となり、りんごの売り場は縮小されました。全国的に荷動

きが鈍い状況のなかで、ギフト需要が例年通りに多く、数少ない春節向け「サンふじ」「有袋ふじ」「金星」「王林」も順調に取引されています。

近年、農業生産基盤が急速に脆弱化していくことが強く懸念される中、新たな第12次「経営・振興3ヵ年計画」の初年度として、これまで以上に農業所得の向上、生産基盤の強化に取り組むとともに、内部監査・リスク体制を機能強化し、JAの健全経営の維持に努めて参ります。地域に根ざした組織として、組合員ならびに利用者の皆様から愛されるJA相馬村をめざし、役職員が一丸となつて取組んでまいりますので、より一層のご理解とご協力をお願いします。

本年も大きな災害の無いことを祈りつつ、組合員及び地域住民の皆様が健やかに笑顔で暮せることを願い新年のあいさついたします。



代表理事組合長	大 場 勉
理事金融共済部長	山 内 利 彦
総務委員長	花 田 敏 幸
りんご委員長	田 澤 俊 明
総務・りんご委員	花 田 勇 人
総務・りんご委員	田 澤 真 由 美
監事藤田	溝 江 翼
監事山内知人	仲 伸
代表監事	
員外監事	
岩谷健	
他職員一同	